

2015年3月期 第2四半期決算説明会

2014年11月10日

株式会社SCREENホールディングス
取締役社長 (COO) 垣内 永次

資料取り扱い上の注意

- ・本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は百万円単位で計算した結果を四捨五入して処理しております。



本日のアジェンダ

1. 2015年3月期 第2四半期業績
2. セグメント別業績概況
3. 財務状況について
4. 企業価値向上に向けた取り組み
5. 2015年3月期業績予想
6. まとめ

2015年3月期 第2四半期連結業績

(単位：億円)	2014/3期					2015/3期				
	実績					実績			前年 同期比	8/5予想
	1Q	2Q	累計	3Q	4Q	1Q	2Q	累計	累計	累計
売上高	593	518	1,111	521	726	524	600	1,124	▲13	1,130
SE	433	323	756	367	506	351	406	757	▲1	770
FE	41	68	109	33	55	49	40	90	▲19	90
MP	116	124	241	117	162	121	150	272	▲31	265
印刷関連機器 (MT)	100	104	205	101	132	102	127	229	▲23	226
プリント基板関連機器 (PE)	15	19	35	16	30	19	23	43	▲7	39
その他(外部売上のみ)	1	2	3	2	2	1	1	3	▲0	5
営業利益	22	8	30	15	43	22	44	67	▲37	47
SE	21	7	28	18	39	29	33	62	▲33	-
FE	1	▲1	0	▲2	▲1	▲4	2	▲2	▲2	-
MP	4	5	10	4	12	4	14	19	▲8	-
その他および調整額	▲4	▲4	▲8	▲5	▲7	▲6	▲5	▲12	▲3	-
経常利益	22	3	26	14	43	23	42	65	▲39	45
当期(四半期) 純利益	16	▲1	15	6	31	15	31	46	▲30	30

*SEは半導体機器事業、FEはFPD機器事業、MPはメディアアンドプレジジョンテクノロジー事業を示しています。

2015年3月期 第2四半期累計業績 (前年同期比較)

■売上高

1,124億円 (前年同期に比べて、13億円<1.2%>増加)

- ・SEは前年同期と同水準で推移
- ・FEが投資タイミングの影響で減少したが、MPがカバー

■営業利益

67億円 (前年同期に比べて、37億円増加<2.2倍>)

- ・前期に実施した緊急対応策の解除や円安影響による人件費や研究費などの固定費は増加したが、変動費の削減やSEの製品構成の変化などにより、営業利益は大幅に増加

■経常利益

65億円 (前年同期に比べて、39億円増加<2.5倍>)

■当期純利益

46億円 (前年同期に比べて、30億円増加<3.0倍>)

■8月に発表した上期業績予想から、利益面で上振れることが判明したため、

11月4日に上期業績予想の修正を発表

限界利益率が想定を上回ったことに加え、予兆管理に基づく経費のコントロールが寄与、固定費が想定を下回ったことによる

>>前年同期比較

(単位：億円)	2014年3月期 2Q		2015年3月期 2Q		前年同期比 (15/3 2Q - 14/3 2Q)	
売上高	518	100.0%	600	100.0%	81	15.8%
営業利益	8	1.6%	44	7.5%	36	446.5%
経常利益	3	0.8%	42	7.0%	38	979.7%
四半期純利益	▲1	-0.2%	31	5.2%	32	-

>>前四半期比較

(単位：億円)	2015年3月期 1Q		2015年3月期 2Q		前四半期比較 (15/3 2Q - 15/3 1Q)	
売上高	524	100.0%	600	100.0%	75	14.4%
営業利益	22	4.3%	44	7.5%	22	100.8%
経常利益	23	4.5%	42	7.0%	18	78.4%
四半期純利益	15	2.9%	31	5.2%	15	103.0%

■第2四半期(7-9月3カ月間)の連結業績結果

売上600億円、営業利益44億円、経常利益42億円、四半期純利益31億円

>>売上高：600億円

前年同期に比べ、81億円増加（15.8%増加）

FEは減少したが、SEとMPが増加

>>営業利益：44億円

前年同期に比べ、固定費は増加したが、売上増加や変動費率改善による限界利益の増加により、営業利益は36億円増加（5.5倍）

営業利益率は、前年同期1.6%から7.5%に上昇

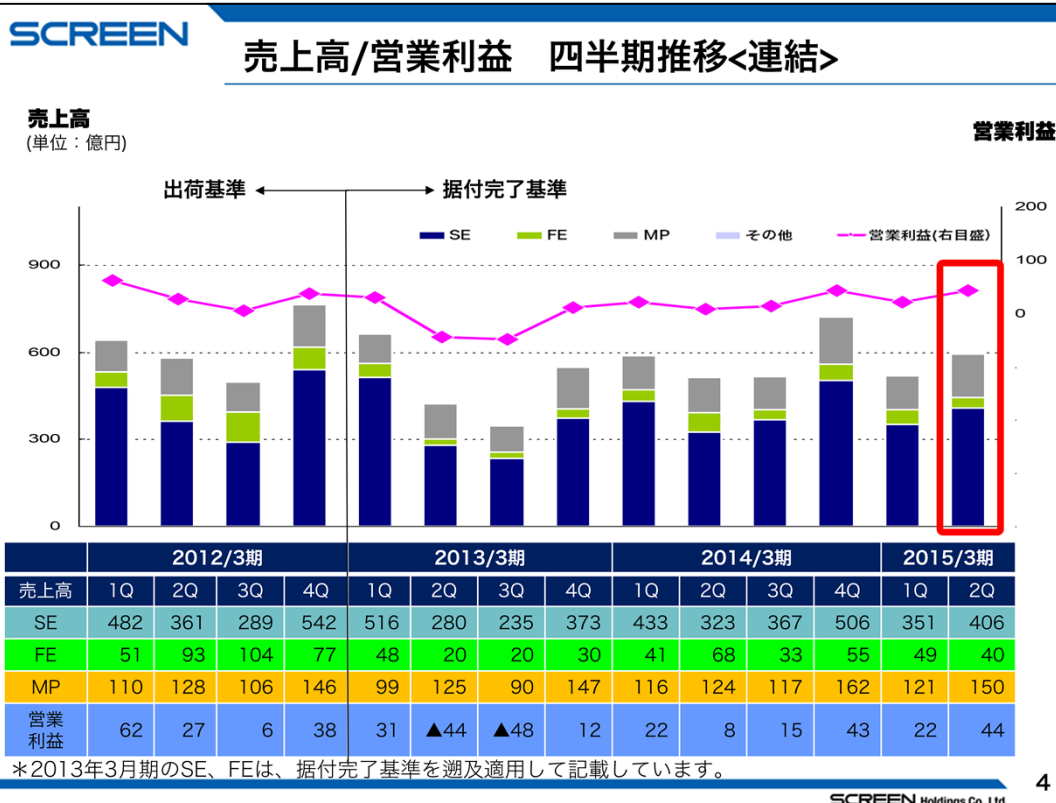
経常利益、四半期純利益ともに、前年同期に比べ大幅に増加

>>前四半期比較： 売上、利益ともに増加

売上は、FEは減少したが、SEとMPが増加

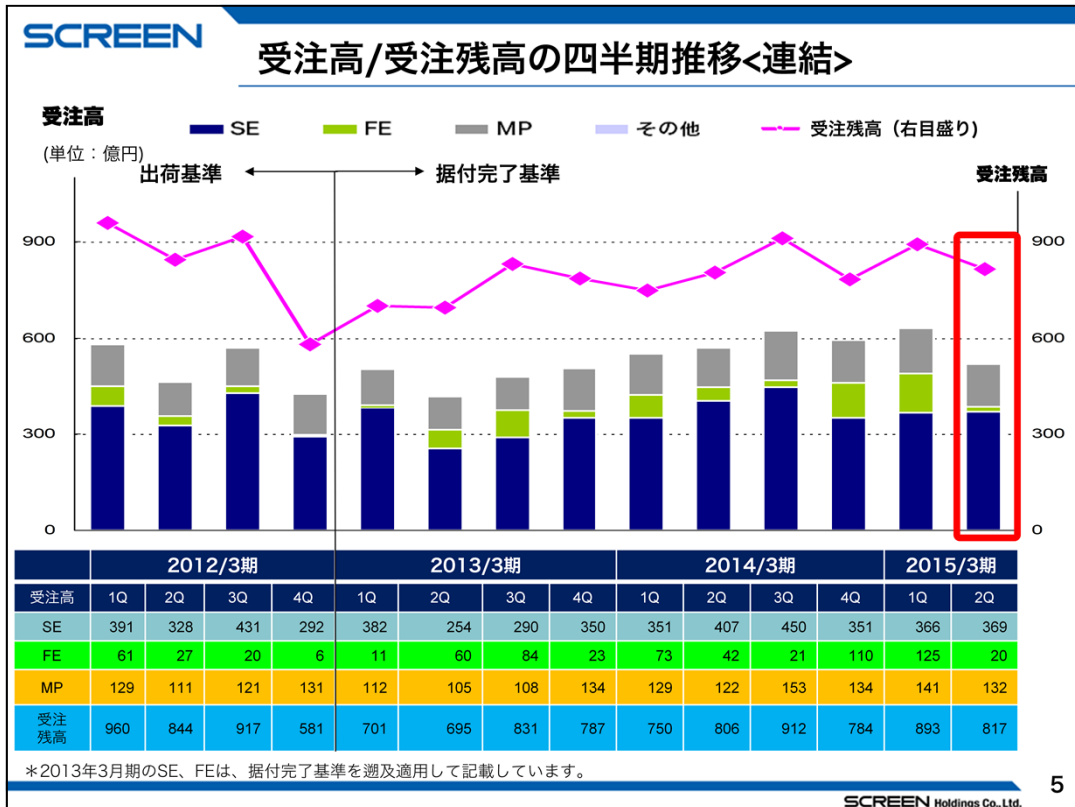
利益面では、たな卸資産評価損や固定費は増加したが、売上増加や変動費率の改善などにより、営業利益が増加

営業利益率も上昇（4.3%→7.5%）



■売上高と営業利益の四半期推移グラフ

第2四半期は、売上増加に加え、変動費率が改善し、営業利益率が上昇



■受注高と受注残高のグラフ

>>第2四半期の受注高は、SEが第1四半期と同水準で推移したが、投資時期の谷間からFEが大きく減少したため、全社合計では第1四半期から110億円減少し、521億円となった

>>受注残高は、第1四半期末から76億円減少し、817億円となった

セグメント別・業績概況<SEセグメント>

>>前年同期比較

(単位：億円)	2014年3月期 2Q		2015年3月期 2Q		前年同期比 (15/3 2Q - 14/3 2Q)	
	売上高	323	100.0%	406	100.0%	83
営業利益	7	2.4%	33	8.2%	25	324.4%

>>前四半期比較

(単位：億円)	2015年3月期 1Q		2015年3月期 2Q		前四半期比較 (15/3 2Q - 15/3 1Q)	
	売上高	351	100.0%	406	100.0%	55
営業利益	29	8.3%	33	8.2%	4	15.2%

トピックス

- ・前年同期比：売上増加に加え、変動費率改善により営業利益率が大幅に改善
- ・前四半期比：たな卸資産評価損、固定費は増加したが、売上増加、変動費率改善により増益
- ・受注：ファウンドリーの減少をメモリー、ロジックの増加でカバー
3Qはファウンドリーがけん引し、2Q比増加を見込む
- ・事業環境：微細化投資により、堅調な市場環境の継続を予想

■SEの第2四半期(7-9月) 連結業績結果

>>売上高：406億円

- ・前年同期比：83億円増加
 - 地域別では、アジアは微減、北米向けや欧州向けが増加
 - 製品別では、洗浄装置はバッチ式、枚葉式ともに増加、コーターデベロッパーが減少
- ・前四半期比：55億円増加
 - 地域的には、台湾や韓国が減少、北米が増加
 - 製品別には、洗浄装置はバッチ式、枚葉式ともに増加、コーターデベロッパーが減少

>>営業利益：33億円

- ・前年同期比、前四半期比ともに、固定費は増加したが、変動費率が改善
- ・前期から掲げていた2013年3月期の変動費率から5ポイント削減目標を達成

>>受注高：369億円

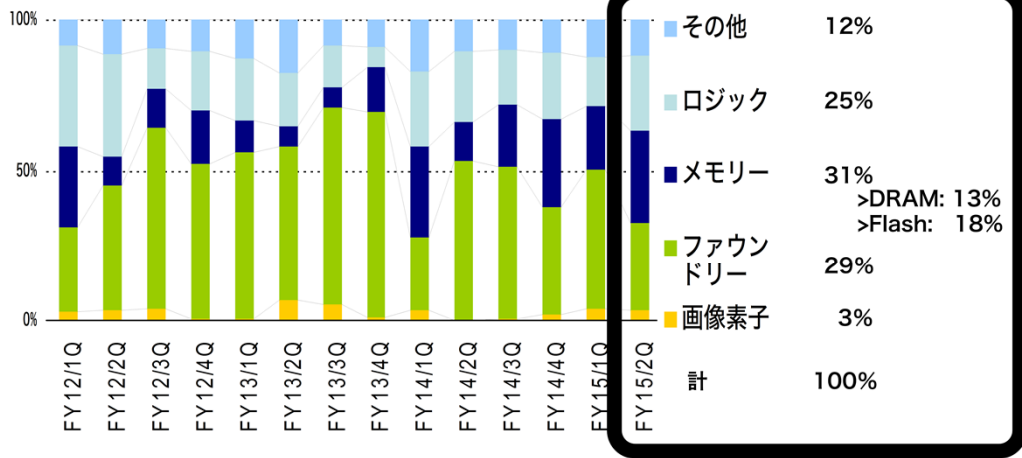
- ・8月時には1Q比10%程度増加を想定していたが、ファウンドリー投資が想定より遅れたことで、1Q実績とほぼ同程度

>>事業環境：微細化投資、メモリー投資が堅調なことから、CY2014のWFE市場の見通しは、+10%～+15%を見込む

受注比率・四半期推移<SEセグメント・デバイス別単独>

>>単独・デバイス別受注比率

*ご参考：連結・受注高（369億円）



>>単独・2Q地域別受注比率

*FY12/2Qよりパーツをその他に含めている



■ SEセグメントにおけるデバイス別受注比率

>>第2四半期実績

- ・ロジックは、堅調に推移
- ・ファウンドリーの減少を、メモリーがカバー
特にNANDが堅調

■第3四半期見通し

- ・メモリー、ロジック投資は堅調に推移するのに加え、
ファウンドリーによる微細化投資により、第2四半期
に比べ増加すると予想

>>前年同期比較

(単位：億円)

	2014年3月期 2Q		2015年3月期 2Q		前年同期比 (15/3 2Q - 14/3 2Q)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
売上高	68	100.0%	40	100.0%	▲27	▲40.4%
営業利益	▲1	-1.5%	2	5.3%	3	-

>>前四半期比較

(単位：億円)

	2015年3月期 1Q		2015年3月期 2Q		前四半期比較 (15/3 2Q - 15/3 1Q)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
売上高	49	100.0%	40	100.0%	▲9	▲18.3%
営業利益	▲4	-8.3%	2	5.3%	6	-

>>トピックス

- ・売上・利益：前年同期比で、売上は減少するも、営業利益は改善。中国向け大型TV用および日本向け中小型が中心。4Qに大幅に増加予想
- ・受注：前2四半期（2014年1月～6月）続いた好調な受注は、2Qでは一服（想定内）3Qには、中国向けおよび中小型向け（日本、アジア）による回復を見込む
- ・事業環境：中国での投資は大型パネル用から中小型用へシフト。台湾でも投資再開の動き

■FEの第2四半期（7-9月）の連結業績結果

>>売上高：40億円

売上が40億円と低かったものの想定どおり着地

>>営業利益：2億円

- ・前年同期比較：売上は27億円減少したものの、営業利益は改善（3億円の改善）
→限界利益率が改善したことによる
- ・前四半期比較：売上は9億円減少したものの、営業利益は改善（6億円の改善）
→固定費は増加したが、コストダウンに加え、収益性の高いポストセールス増加による限界利益率が改善したことによる

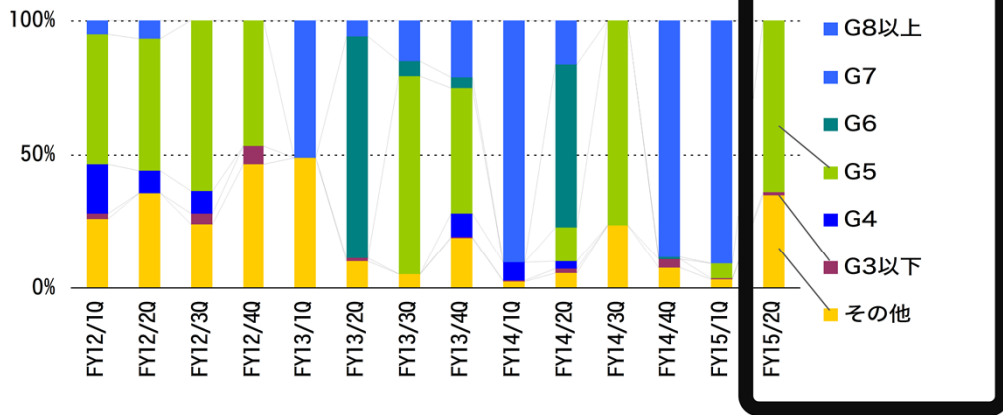
>>受注高：20億円

- ・前期第4四半期から半年間続いた受注の山は、中国向け大型TVパネル用製造装置（コーターデベロッパー）が牽引したが、第2四半期は一服感があった
→8月時点で説明していたとおり
- 第3四半期も一服感が続くと思っていたが、第4四半期で想定していた案件の一部が少し早くなる可能性が出てきた

受注比率・四半期推移<FEセグメント・世代別単独>

>>単独・製品サイズ別受注比率

*ご参考：連結・受注高（20億円）



>>単独・2Q地域別受注比率

*FY12/4Qはクロスにて算出



■FEセグメントのガラス基板サイズ別受注

>>第2四半期実績

- ・8月想定とおり、投資の谷間のため低調な受注
- ・全体受注額が少なかったことから、ポストセールスなどの「その他」の比率が上昇

>>第3四半期見通し

- ・第4四半期に想定した案件が、前倒しとなる可能性があり、第3四半期から増加を見込む

セグメント別・業績概況<MPセグメント>

>>前年同期比較

(単位：億円)

	2014年3月期 2Q		2015年3月期 2Q		前年同期比 (15/3 2Q - 14/3 2Q)	
売上高	124	100.0%	150	100.0%	26	21.1%
営業利益	5	4.8%	14	9.7%	8	147.0%

>>前四半期比較

(単位：億円)

	2015年3月期 1Q		2015年3月期 2Q		前四半期比較 (15/3 2Q - 15/3 1Q)	
売上高	121	100.0%	150	100.0%	28	23.6%
営業利益	4	3.7%	14	9.7%	10	228.9%

>>トピックス

- ・売上： MT：2Q前年同期比で26億円増加。日本、英国でCTP販売が堅調に推移
円安による為替の影響も追い風
PE：高いスマホ需要により、直接描画装置が増加
- ・営業利益： MT：円安効果に加え、海外販社の収益改善も貢献
- ・事業環境： MT：CTPの国内入れ替え需要が継続中。PODは欧州で回復兆し

■MPの第2四半期(7-9月) 連結業績結果

>>前年同期比較

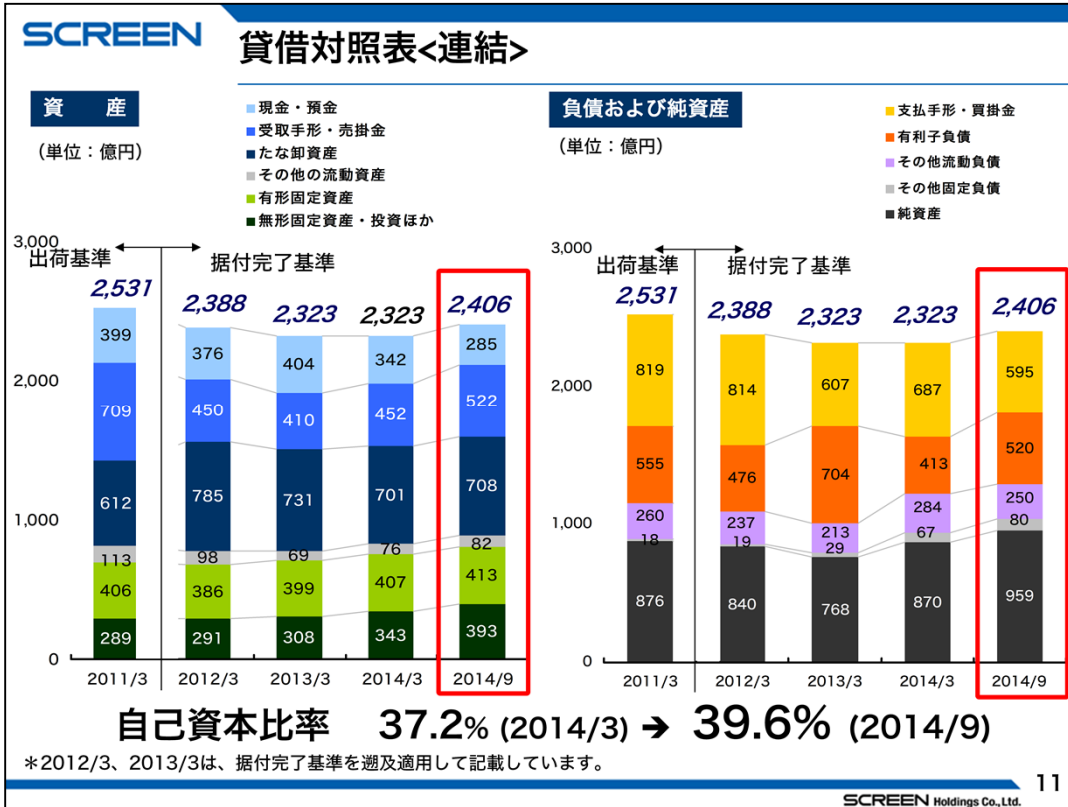
- ・売上高：150億円で、前年同期比で26億円増加
→円安の追い風もあり、POD、CTPともに増加
- ・営業利益：14億円で、前年同期比で8億円増加
→固定費は増加したが、売上増加による限界利益の増加でカバー

>>前四半期比較

- ・売上高：28億円増加
→POD、CTPともに増加、国内でのCTP更新需要が継続
→PEもスマホ需要により、直接描画装置が堅調
- ・営業利益：10億円増加
→第1四半期に赤字であった海外販社が黒字に転換し、利益押し上げ要因

>>事業環境

- ・MTは引き続き、国内でのCTPの更新需要は続く見通し
欧州において、PODの引き合いが徐々に増加
- ・PEは、直接描画装置の販売中心が韓国から中国、台湾へシフト



■2014年9月末 貸借対照表

>>資産合計：2,406億円（前期末比82億円増加）

現金及び預金は減少、受取手形及び売掛金、保有有価証券の時価上昇による投資有価証券などが増加

>>負債合計：1,446億円（前期末比6億円減少）

借入金は増加したが、社債や支払手形及び買掛金が減少

>>純資産合計：959億円（前期末比88億円増加）

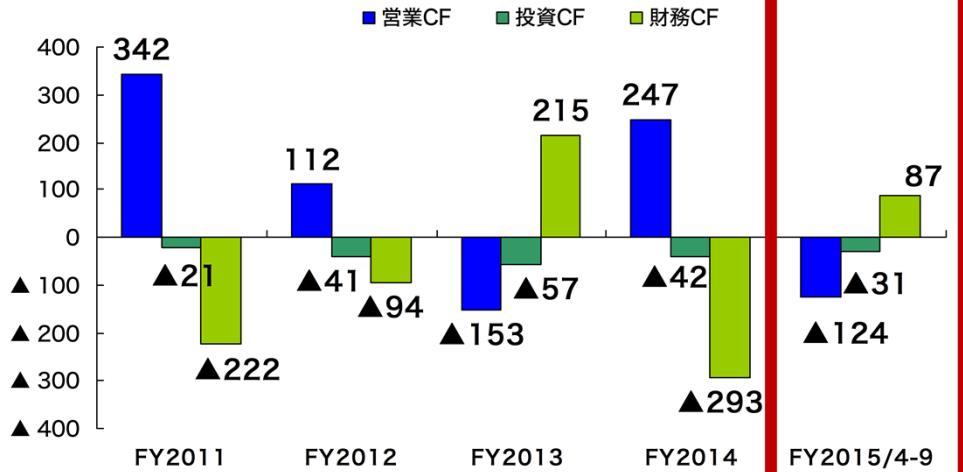
配当金の支払いの一方で、四半期純利益の計上や保有株式の時価上昇によるその他有価証券評価差額金などが増加

>>当期末の自己資本比率：39.6%（前期末比2.4ポイント上昇）

キャッシュ・フロー<連結>

>>2Q累計・フリーキャッシュ・フロー： ▲155億円

(単位：億円)



■キャッシュ・フロー

>>営業活動によるキャッシュ・フロー

仕入債務の減少、売上債権の増加などの支出項目が、税金等調整前四半期純利益、減価償却費などの収入項目を上回り、124億円の支出

>>投資活動によるキャッシュ・フロー

研究開発設備等の有形固定資産を取得したことなどにより、31億円の支出

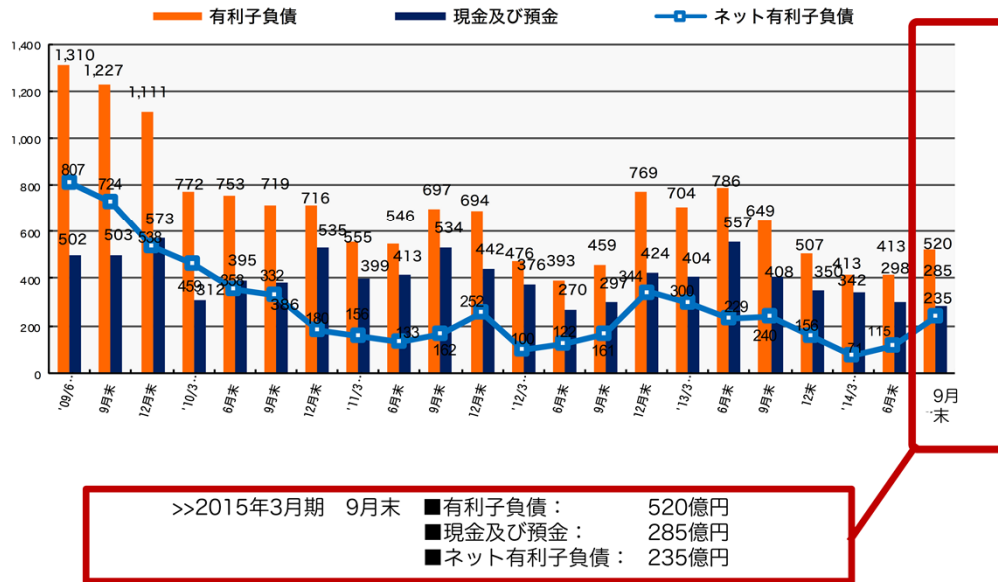
>>財務活動によるキャッシュ・フロー

社債を償還した一方、借入金の増加などにより、87億円の収入

>>当2Q末における現金及び現金同等物残高：255億円

有利子負債推移<連結>

(単位：億円)

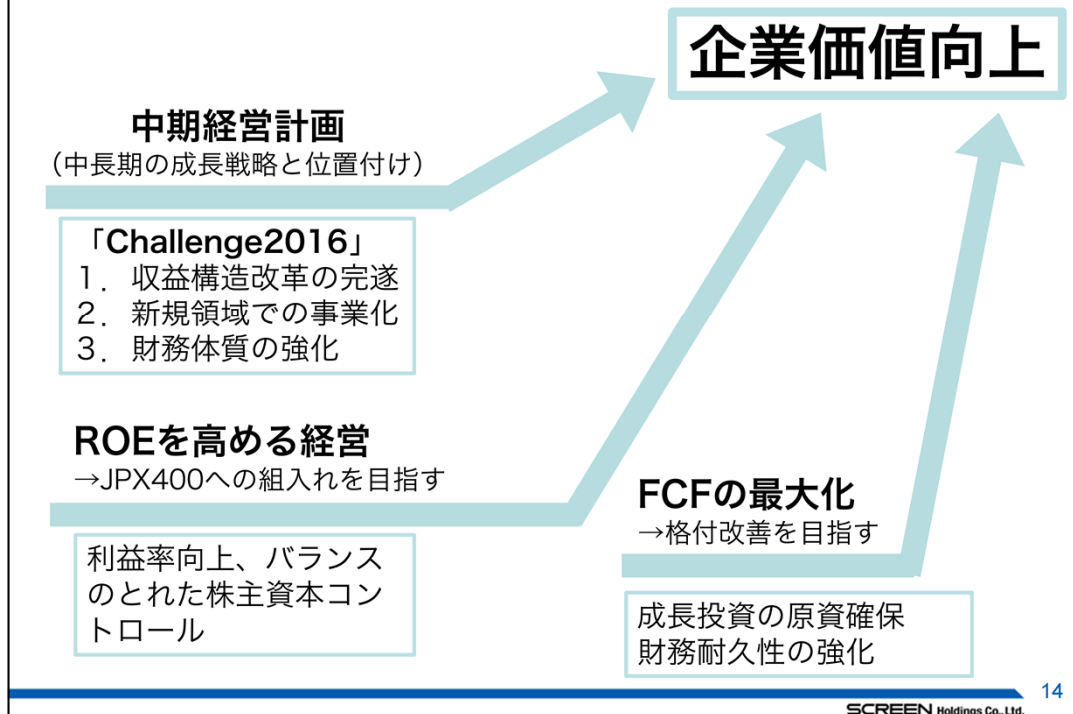


■有利子負債の推移

社債償還資金を長期借入金で、営業キャッシュ・フローの一時的なマイナスを短期借入金でそれぞれまかかった

>>第2四半期末有利子負債：520億円（前期末から107億円増加）

>>有利子負債から現金及び預金を除いた純有利子負債：235億円（前期末に比べて163億円増加）



新経営体制になって、「中期経営計画」から一段と高い概念として「企業価値向上」を目指すプログラムを策定

>>中期経営計画は、達成に向け、愚直にしっかりと進行中

>>上記に加えて、

ROEを高める経営、FCFの最大化を進め、JPX日経400の組み入れ、格付けの上昇を目指し、企業価値を高めていきたい

>>さらには、

株主還元策も社内で議論を進めており、来年には開示したい

1. 収益構造改革完遂、高収益体質へ

- ①主要機種に特化し限界利益を拡大
- ②プロダクトミックスの改善
- ③予兆管理と迅速な対応の徹底



2015年3月期上期で一部効果が顕在化

現在取り組んでいる中期経営計画に関して、3つの基本方針に沿って進捗状況を説明

■収益構造改革の完遂とさらなる高収益体質に向け

>>それぞれの事業における主要製品に特化して限界利益率を高める取り組みを実施中

>>収益性を高めたこれらの主要製品の売上比率やポストセールスの売上比率を増加する

>>一定の先行指標を定め、予兆管理しながら、こられの変化を察知すれば、すぐに対応できる仕組みを今期から取り入れ済み

上記の取り組みがうまく歯車がかみ合い、上期にもその効果が現れた

2. 新規事業領域での事業化

① ライフサイエンス

3D細胞スキャ：新製品リリース、錠剤インクジェット印刷機：来年3月製品化
バイオベンチャーとの共同開発進行中

② 検査計測

車載用部品用のデモ機にて内覧会開催、潜在顧客の反応は上々

③ エネルギー

塗布・成膜技術をベースに複数アプリケーションで進行中

④ プリントドエレクトロニクス

プロセス技術開発中。前後工程の装置とプロセス技術提供が強み



テーマごとに進捗にはばらつきはあるが、HD化に伴い、
開発・マーケティング・営業が一体となって事業化を加速

■新規領域での事業化に関する進捗

>>4つ分野の進捗はそれぞれ記載の通り。計画に対し予定通り進捗
しているものもあれば、遅れているものもある

>>今回持株会社体制に移行し、新規事業の立ち上げをホールディング会社
(SCREENホールディングス)の責任として位置付けており、開発から販売に
至るまでの責任を担う。今後さらに事業化を加速させていきたい

3. 財務体質の強化

- ① 運転資本の圧縮
- ② 資産の効率化
- ③ 純有利子負債削減

在庫水準
製品リードタイム
売掛債権額
CCC*
などの指標で管理



分社により、事業特性に合わせてきめ細かく管理徹底

CCC*: Cash Conversion Cycle

17

2015年3月期業績予想

(単位：億円)	2014/3期	2015/3期				
	通期	上期	下期(予想)		通期(予想)	
	実績	実績	8月発表	11月発表	8月発表	11月発表
売上高	2,359	1,124	1,280	1,295	2,410	2,420
S E	1,631	757	815	862	1,585	1,620
F E (FT*)	198	90	180	144	270	235
MP (GP*)	521	272	275	282	540	555
OT	8	3	10	6	15	10
営業利益	89	67	65	79	112	147
経常利益	83	65	60	76	105	142
当期純利益	54	46	53	65	83	112

●想定為替レート>> 1米ドル=105円、1ユーロ=135円

●年間配当金予想>> 期末配当1株当たり5円(5月発表予想から変更なし)

*注>> FT：旧「FPD機器事業」 → ファインテックソリューション事業 (FT)

GP：旧「メディアアンドプレジジョンテクノロジー事業」

→ グラフィックアンドプレジジョンソリューション事業 (GP)

さいごに、本日発表した業績予想の修正に関して説明する

>>売上高：期ずれによりFEは減額修正するが、SEが足元の設備投資の状況を考慮し、増額修正した。

また、MPもPODが伸びる予想から増額修正した

>>利益面：限界利益率において上期実績を考慮し、下期の予想を見直した

以上より、このような下期業績予想とした

なお、全社の営業利益率は、下期予想を6.1%と、上期実績6.0%からさらに高い予想としている

- >>持株会社体制への移行完了
- >>収益構造改革は順調に進捗中
- >>半導体製造装置、FPD製造装置の両市場環境とも堅調に推移する見通し
- >>中期経営計画を含めて、企業価値向上に向けたプログラム策定

SCREEN

Fit your needs, Fit your future

